

五泉市生涯学習基本構想・基本計画 (後期計画)

2013(平成25年度) ▶ 2017(平成29年度)



人と自然が織りなす創造都市

ごせん



平成25年4月

五泉市教育委員会 生涯学習課

五泉市生涯学習基本構想・基本計画

後期基本計画の策定にあたって

本市では、平成20年度に「学び合い皆がいきいきと暮らし、地域がふれあひ互いに育む五泉市の生涯学習」を将来像とした平成29年度までの10年間を計画期間とする生涯学習基本構想を策定するとともに、平成24年度までの前期基本計画を策定し、まちづくりを推進しています。

このたび、前期基本計画の計画期間が終了することから、平成25年度から29年度までを計画期間とする後期基本計画を策定しました。

目次

五泉市の概要	P. 1
いきいきの泉水	
基本施策	P. 2
市民意識の推移	
生涯学習の充実	P. 4
基本方針	
現状と課題	
意識調査の分析	
今後の取り組み	
生涯スポーツの推移	P. 9
基本方針	
現状と課題	
意識調査の分析	
今後の取り組み	
芸術文化の推進	P. 13
基本方針	
現状と課題	
意識調査の分析	
今後の取り組み	
図書に親しむ環境整備の推進	P. 18
基本方針	
現状と課題	
今後の取り組み	
文化財の保護と活用の推進	P. 20
基本方針	
現状と課題	
意識調査の分析	
今後の取り組み	
ふれあいの泉水	
基本施策	P. 23
市民意識の推移	
青少年を地域でぐるみで育む環境整備の推進	P. 26
基本方針	
現状と課題	
意識調査の分析	
今後の取り組み	
市民意識調査アンケート結果（抜粋）	P. 29

五泉市の概要

(1) 位置・面積及び自然環境

五泉市は新潟県の、県庁所在地である新潟市から南東方向に隣接して位置しています。他の隣接市町村は東に阿賀町、西に加茂市・田上町、南に三条市、さらに北には新潟市の他に阿賀野市となっています。面積は約351.9km²であり、人口は54,860人です。

また、山紫水明、緑豊かな山々や清らかな川の流れ、肥沃な大地などの自然の恵みの中で、全国的にも有数なぼたん・チューリップ、栗、銀杏(ぎんなん)、里芋、養鯉業など数多くの特産物を生み出しています。

五泉市は良質で豊富な湧水や阿賀野川・早出川の河川水に恵まれ、古くは絹織物の産地として知られており、戦後はその技術を利用してニット工業が発展し、全国にも知られるニットのまちとして現在もお続いています。

気候は、冬と夏の寒暖の差が大きい内陸的気候で、四季がはっきりとしています。また村松地域は特別豪雪地域に指定され、山沿いは多くの降雪により住民生活の支障となることがあります。また、川東地区を中心に、気圧の配置によっては四季を問わず強い東風が吹くことがあり、農作物に被害をもたらすことがあります。

(2) 人口構成

五泉市の人口は、昭和60年の国勢調査人口62,781人が最多であり、平成24年12月1日現在の住民基本台帳人口は54,860人と減少しています。減少傾向はこのまま続き、総合計画では平成28年の推計人口は52,000人と想定しています。

(12月1日現在 住民基本台帳人口)

人口構成		平成20年	平成24年	対比
年少年齢人口	0歳～14歳	7,051人	6,294人	△10.7%
生産年齢人口	15歳～64歳	34,358人	32,605人	△5.1%
高齢者人口	65歳～	15,444人	15,961人	3.3%
計		56,853人	54,860人	△3.5%

人口構成については表のとおりです。全体で5年間に64歳以下人口が減少、65歳以上人口が増加しており、高齢化が進行していると考えられます。

また、現在63歳と64歳の人口が五泉市では最多となっていますので、平成25年以降さらに高齢者人口が増加し、高齢化が加速することが確実となっています。

(3) 五泉市の地域的特色

五泉市は平成18年1月1日に旧五泉市と旧村松町の二つの市町が合併しました。

合併以前の旧五泉市はニット工業を中心にまちが栄え、商工業のまちとして知られています。また、旧村松町は江戸時代からの城下町であり、史跡や古文書等も多く残っており、郷土資料館で大切に保管展示されています。

基本施策

いきいき
いずみ
の泉水

～ 笑顔あふれ、いきいきと暮らしているまち ～

誰もが生きがいをもち、いきいきと暮らすことができるよう、一人ひとりの自主性や個性を尊重し、たくましく生きる力を育む環境づくりや、いつでもどこでも学習や運動のできる機会を充実し、笑顔のあふれるまちづくりを進めます。

市民意識調査の内容分析

- ◆問 2『どんな事をしているときにいちばん楽しみや喜びを感じますか?』という設問では
「趣味」と回答した市民は15年・20年・24年の調査でもほぼ20%の安定した回答率でした。しかし、「家族と一緒に」「仲間といる時」「テレビなどを見ている時」の項目では、15年と比較し24年では△15.6ポイントの32.4%と減少しました。また「一人である時」の項目では、15年と比較し10.4ポイント増え、14.8%となりました。これは、現在の社会的現象の象徴的なものであり、人と人とのつながりや人間関係が煩わしく、一人で誰にも気を遣わず好きなことをしたいという市民が増えてきたものと考えられます。
- ◆問 3『この1年間で生涯学習課や公民館が開催する、スポーツや教養講座に参加したことがありますか?』という設問では
「ある」と回答した市民は15年では44.0%でしたが、24年では14.7%と大幅に減少しています。
- ◆問 4『今後、生涯学習課や公民館が開催するスポーツや教養講座に参加したいと思えますか?』との設問では
「したい」と回答した市民は20年では82.8%でしたが、24年では56.8%に減少しています。この10年ほどの間に、生涯学習に対する市民の関心が大きく変化しています。原因としては就労形態の多様化により、余暇や休日が分散化してきたことや経済状況の低迷により精神的・経済的余裕がなくなってきたことが考えられます。
- ◆問 5『スポーツや教養講座に参加した理由は「何のため」でしたか?』という設問では
15年では「生きがいや楽しみのため」との項目に回答した市民は40.6%でしたが、24年では19.8%に減少しました。「健康・体力づくりのため」との項目に回答した市民は15年では20.8%でしたが、24年では29.3%に上昇しています。「知識教養を高めるため」「芸術・趣味等のため」との設問も24年には大幅に減少しました。

- ◆問6『今後スポーツや教養講座に参加したいと思う理由は「何のため」ですか?』及び『今後参加したいと思うスポーツや教養講座は「どのような内容」ですか?』という設問では

「健康・スポーツ」「趣味や教養」の項目が、それぞれ20年と比較し24年では上昇していますので、これからの生涯学習講座を企画するにあたっての重要な柱になります。

- ◆問7-1『今後参加したいというスポーツや教養講座は「どのような方法」ですか?』という設問では

「五泉市の生涯学習課の教室・講座・研修会等」「グループ・サークル・団体等」という項目の回答が15・20・24年と順次増加しており、回答率も高くなりました。生涯学習をやりたいと考えている市民や、生涯学習の経験がある市民については、参加内容及び参加方法は従来のとおり「健康・スポーツ」「趣味や教養」の内容を生涯学習課の開催する講座等やグループ・サークル・団体等で続けていきたいとの結果でした。

- ◆問9『スポーツや教養講座に参加したことがない理由は何ですか?』

という設問では

「時間帯があわないから」という項目で、20年より7.3ポイント増加し全体で20.3%と一番多い回答になりました。「きっかけが無いから」という項目が20年より0.8ポイント減少し、次に多い回答となりました。きなせや楽習大学や生涯学習フェスティバルなどで生涯学習のきっかけ作りを推進したことで、きっかけ作りは若干効果が表れてきていると考えます。時間帯の設定については、講師の都合やコスト面で難しい調整が必要と考えます。しかし、20.3%という数値は大きく、問2・問3での数値が大きく変化したのは「時間帯」もひとつの原因と考えられます。「学習や活動の情報が得られないから」との項目の回答は24年では9.7%となり、20年と比較すると3.6ポイント増加しています。生涯学習課では、今後さらに積極的に市の広報紙やホームページを活用し、情報を発信しなければならないと考えます。

生涯学習の充実

■基本方針

いつでも、どこでも、誰でも学べ、さらに学んだことを教えることで、学ぶ喜びと学びあう喜びを実感し、いきいきと暮らせるまちをめざします。

学習できる場の充実や情報提供に努め、学習意欲と多様な価値観に対応した学習ができる環境づくりを推進します。

地域での特色を活かした学習ができる体制の整備を推進します。

また、次世代を担う子どもたちを、地域社会が協力して育むための取り組みを進めます。

●現状と課題

- 1) 高齢化や高度情報化、趣味・娯楽の多様化により、生きがいや心の豊かさを求めて、生涯学習に対する市民のニーズは多様化しています。また、市民意識調査を分析すると市民の生涯学習に関する興味の大きな変化、「生きがい」に対する価値観の変化がうかがえます。このことから、市民が「受講してみたい」と思わせる講座内容の見直しや、市民が「学習したい」と思うときに、気軽に学習できるような生涯学習環境を整備し、生涯学習参加者を増加させることが課題となっています。
- 2) 市民が気軽に生涯学習に参加できるためには、常に情報収集に努め、市民のニーズに応じた学習講座を開設し、それらの情報を広くわかりやすく発信することが大切です。
- 3) ここ数年、横ばい状態となっている民間指導者（達人バンク）の登録者の新規開拓や需要の発掘などが必要となっています。
- 4) 市民の生涯学習活動に支障をきたさないように、生涯学習施設についても整備推進を検討することが必要です。
- 5) 子どもたちの休日や放課後の生涯学習活動について、精一杯の活動ができるよう安心・安全な居場所の提供が必要です。
- 6) 学習教室の開催地から離れている市民や、交通手段が不便なところで生活している市民については、近隣で学習意欲を満たすことのできるよう、小学校などを活用した地域公民館で学習ができるよう地域活動の拠点を整備・充実することが必要です。

市民意識調査の内容分析

- ◆問 30『あなたは講座や教室以外で学習や運動をする時、グループやサークルに加入して活動していますか?』との設問では

24年は「加入している」が26.3%であり「加入していない」が69.7%でした。これは15年・20年の数値をみても、比較的安定したものとなっています。年代別で比較すると70歳代以上の加入が高く、40歳代の加入が低くなりました。特徴的なことは20歳代の加入が26.7%であり、30歳代40歳代と比較し高くなったことです。このことについて、20歳代は未婚者が多く自由な時間が多いのでスポーツ、サークル等に加入して活動しており、30歳代から50歳代は就労や子育てなどで余暇時間が少なく、「趣味」に費やす時間をつくるのが難しいと考えられます。60歳を超え、ようやく定年退職を迎えた頃に余暇時間が増え、生涯学習を意識すると考えられます。

- ◆問 31『あなたが加入しているグループやサークルはどのような内容ですか?』という設問では

「趣味の会」と回答した市民が15年では30.6%であり、24年では16.9%と約半分に減りました。「スポーツの会」と回答した市民は15年では19.7%でしたが、24年では32.5%と大きく増加しました。また、生涯学習課の「各種講座・グループ」との回答は15年では11.6%でしたが、24年では若干増加し、13.3%となりました。これは、近年の健康ブームの影響で「スポーツの会」の加入率が上昇したと考えられます。年代別傾向としては、「スポーツの会」は20歳代や30歳代が多く加入しており、「趣味の会」は60歳代や70歳代以上が多く加入しています。生涯学習課の「各種講座・グループ」は幅広い年齢層が加入しています。

- ◆問 33『あなたが日常生活や仕事及び学習で習得した知識や技能は、今後どのような活用を考えていますか?』この設問では

知識や技能の活用方法や生涯学習指導者の担い手について、調査しました。20年のアンケートと質問項目が若干異なりますが、24年は「希望者がいるなら教えたい」が16.8%、「考えていない」51.3%との結果となりました。20年では「子どもたちや市民に教えたい」13.7%、「仲間を増やし、高めたい」31.7%との結果になりました。潜在的な「教えたい」という気持ちを持っている市民は、24年では約3割程度と予測されます。生涯学習課ではこれら市民を、生涯学習指導者へと育成する方法を考えていかなければなりません。

- ◆問 28『家庭で子どもたちに、特に重要と思う教育内容はどのようにお考えですか?』この設問では

「乳幼児期」「小学生期」「中学生期」「高校生期」に分け、項目を設けて調査しました。このなかで「小学生期」について内容を分析してみると、24年では「学習習慣」が12.3%と「基本的な生活習慣」の次に多い回答となりました。また「生活体験」「自然体験」を合計すると17.7%と高い回答となりました。現在の多様な就労形態により、家庭が不足しがちなこれらの項目について、生涯学習課が少しでも子どもたちに充足できるような機会を提供することが必要です。

今後の取り組み

I 学習機会の充実

- 1) 誰でも気軽に「学ぶ」ことができると同時に、「教わる」だけではなく、学んだことを「教える」ことを通じて、自分の能力を社会に貢献できるような、学習機会の充実を図ります。また、社会に貢献しているということを経験することにより、さらに学習する楽しさが広がります。このように生涯学習の「楽しさ」を多くの市民に体験してもらうため、学習活動の充実と活性化を図ります。
- 2) 多種多様な分野での学習講座について、市民に生涯学習の楽しさを「誰でも」「どこでも」「気軽に」体験できるよう、工夫をこらして開設します。また、近年の就労形態の多様化・複雑化により、個々の余暇時間が分散しているため、講座を開設する日時などを再考し、学習に参加しやすい環境を整備します。
- 3) これからも増加すると予想される団塊の世代の退職者に対して、余暇を有意義に過ごしてもらうため、高齢者向けの学習講座の見直しを行い、学習意欲の高揚に努めます。
- 4) 将来的に市民がどのような講座を希望しているのか、現時点での開設講座はどの程度満足しているのかなど、市民の生涯学習に対する意識を定期的に調査し、講座の見直しや企画・開設に役立てます。
- 5) 講座参加募集リーフレットなどは、型にはまった言い回しを避けて、デザインや字体に工夫をこらし、やわらかい雰囲気で作成し、市民が学習参加意欲を増すように作成します。講座の開設状況や講演会の開演予定などを市のホームページや広報紙に積極的に掲載し、常に新しい情報を市民に提供し、参加を促します。

具体的な取り組み：市民大学講座事業等

II 民間指導者の育成・活用の推進

- 1) 退職を迎えた団塊世代の市民を対象に、広く指導者の募集に努めます。このことにより、より多彩な職種経験者をより多く生涯学習指導者になってもらうよう民間指導者の発掘を推進します。

- 2) 民間指導者を「達人バンク」に登録することを勧誘し、「達人バンク」に登録後は生涯学習指導者となるように支援を行います。このため、生涯学習課では民間指導者への講座開設に向けての相談や、講座開設後の「見守り」を行います。
- 3) 講座を開設し、その後、生涯学習団体へと継続した活動ができるようになったグループは、社会教育団体に移行させ、将来的に行政に頼らず自主活動ができるよう育成をサポートして行きます。
- 4) 現在、生涯学習活動をしている社会教育団体についても、必要であれば活動支援を行い、自主性の維持や活性化に努めます。

具体的な取り組み：ごせん活き活き楽習達人バンク推進事業

きなせや楽習大学事業

生涯学習フェスティバル事業

Ⅲ 子どもの居場所づくり

- 1) 子どもたちの生涯学習活動について、すこやかにのびのびと活動できるよう、地域の力を活かした安心・安全な居場所づくりを推進します。
- 2) 小学生の放課後から帰宅するまでの時間帯について、各小学校区の地域公民館や集落開発センター、小学校の空教室を利用して、退職教員や学習指導者等がドリル学習やレクリエーション活動を行う「寺小屋」事業の充実を図ります。このことにより、子どもたちが学年の垣根を越えた交流を体験し、自ら考え行動ができる豊かな感性や社会性を養う学習機会を提供します。
- 3) 子どもたちが団体生活を通じて、親元を離れて市の宿泊施設に連泊しながら小学校へ通学する「生き生き通学合宿」事業等を展開し、自ら考え行動できる子どもの育成に努めます。

具体的な取り組み：寺小屋事業

週末活動等支援事業

生き生き通学合宿事業

中高生ボランティアスクール事業

IV 公民館の有効活用

- 1) 地域に密着した生涯学習を実施するため、市内に設置している地区公民館の施設活用を推進します。さらに、小学校区単位の地区公民館の整備を図り、公民館活動の充実に努めます。
- 2) 地域の長所である、住民と住民とのまとまりの良さや絆の強さを活かした、さまざまな行事を展開します。また、それぞれの地域の特色を活かした行事や、古くからの地域特有の行事を大人から子どもまで地域ぐるみで参加することにより、更なる地域の活性化が期待できます。
- 3) 市街地での生涯学習講座に参加することが難しい高齢者や、交通手段が不便な住民についても、気軽に参加できる学習機会の提供を、これからも積極的に行い、高齢者等の地域住民に「学ぶ楽しみ」を体験してもらい、生きがいづくりを推進します。
- 4) 現在、設置している公民館施設について、今後も整備に努め、公民館の有効活用を推進します。

具体的な取り組み：地区公民館拡充事業

V 生涯学習関連施設の計画的な整備

- 1) 利用者が安全にのびのびと利用できる生涯学習施設について、計画的に改修していく必要があります。
- 2) 多様化する市民の学習ニーズに対応するため、生涯学習と芸術文化活動の複合的な拠点施設である（仮称）生涯学習センターの建設に向けて、検討を進めます。計画にあたっては、効率的な運営、利用予測や施設の活用方策などを総合的な視点で検討します。

具体的な取り組み：（仮）生涯学習センター建設推進事業

生涯スポーツの推進

■基本方針

子どもから高齢者まで、生涯を通じて健康で活気に満ちた生活を送ることは、市民の願いです。誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも気軽にスポーツに親しみ、元気に心豊かで生きがいのある生活を送ることができるまちをめざします。

一人でも多くの市民に気軽にスポーツを楽しんでもらえる場をつくることにより、健康の維持・増進の機会を提供するとともに、施設環境や備品等の整備・充実に努めます。

また、競技スポーツの振興を図るため、各種大会の招致や開催に努めます。

●現状と課題

- 1) 児童・生徒の運動する子としない子の二極化や成人の生活習慣病の増加、高齢化の進展などにより、「健康維持・増進」「介護予防」のための生涯スポーツに対する市民ニーズが高まっています。そのため、体力づくり教室の延べ参加者数は、平成22年度の9,332人から平成23年度には10,408人に増加しています。
- 2) スポーツ指導者の育成や施設整備・管理の充実など、スポーツ環境の充実に努め、より多くの市民がスポーツに親しむ機会を提供することが必要です。
- 3) 子どもから高齢者まで、普段運動に関心がない人を運動に引き込めるよう、参加しやすくなるような教室、イベントを企画することが必要です。
- 4) 幅広くスポーツ大会を招致・開催し、よりハイレベルな試合等を間近に体験できる機会を提供することが必要です。
- 5) スポーツ施設利用者の安全性や利便性を考慮した、適正な施設管理が必要で

市民意識調査の内容分析

- ◆問 10『あなたは、定期的に運動を行っていますか?』という設問では
「週3回以上」18.9%、「週1回以上」16.2%で、「週1回以上運動している人の割合」は35.1%となり、平成22年調査24.1%と比較し、11ポイント増加しています。健康志向の高まりで、運動習慣の定着が進んでいると思われます。
- ◆問 11『1回の運動時間はどれくらいですか?』という設問では
「1時間程度」47.5%、「30分以内」24.2%、「2時間程度」22.2%、「3時間以上」3.0%でした。1時間程度が最も多く、集中して、しかも長く継続するためには、1回1時間程度の運動時間が一番適しているのではないかと思います。
- ◆問 12『主にどのような運動をしていますか?』という設問では
「ウォーキング」が31.5%、「ジョギング」13.7%、「筋力トレーニング」12.1%、「エアロビなどのエクササイズ」と「競技スポーツ」がそれぞれ10.5%、「柔道などの武道」0.8%でした。特に「ウォーキング」が31.5%と高く、すべての運動の基本である「歩く」ということが認識されているものと思われます。
- ◆問 13『どのようなスポーツ(運動)に興味や関心がありますか?(普段運動をしてない人)』という設問では
「ウォーキング」25.6%、「エアロビなどのエクササイズ」23.8%、「筋力トレーニング」17.6%、「ジョギング」と「競技スポーツ」がそれぞれ9.7%、「柔道などの武道」0.9%となっています。ウォーキングの人気が高く、次いでエクササイズ系でした。年3回開催している健康ウォークや体カづくり教室のさらなる充実が求められているものと思われます。
- ◆問 14『総合型地域スポーツクラブとはどのようなものか知っていますか』という設問では
「よく知っている」と「だいたい知っている」が17.2%、「聞いたことがあるが内容までは知らない」が33.3%、「知らない」が47.4%でした。スポーツクラブの認知度はまだ低いので、今後、広報誌等や、PRイベント、PR教室で周知する必要があると思われます。
- ◆問 15『総合型地域スポーツクラブが設立された場合、どのようなスポーツ(運動)教室の開催を希望しますか?』という設問では
「健康増進のための運動教室」42.6%、「複数の種目が体験できる教室」13.9%、「親子で参加できる教室」12.7%、「競技系のスポーツ教室」10.9%、「レクリエーション的な教室」10.0%、「小学生放課後運動教室」6.8%でした。生活習慣病予防、介護予防などのための教室のニーズが高いと思われます。
- ◆問 16『スポーツクラブが設立された場合、会員登録(年会費自己負担)したいと思いますか?』という設問では
「登録したい」と「やりたい種目があれば登録したい」で64.5%、「なんともいえない」29.4%、「登録はしない」3.9%で、市民ニーズと合致した企画をすれば、会員確保もできると思われます。特筆すべきは、男性も58.8%の人がやりたい種目があれば会員になりたいと思っている点です。現在の市の体カづくり教室は、大部分が女性の参加者です。男性のニーズも考慮した教室(男性向けの)の企画も重要であると思われます。

今後の取り組み

I 生涯スポーツ活動の推進

子どもの体力・運動能力低下を防止するため、レクリエーションやスポーツを通じて体力づくりの機会を提供します。青・壮年期を通して生活習慣病を予防し、主体的に健康維持・管理できる運動機会を提供します。さらに、高齢者の介護予防・健康増進のための運動教室を開催します。また、総合型地域スポーツクラブの設立準備をし、市民による主体的・自主的運営により、市民に運動の機会を提供します。

具体的な取り組み：健康増進・体力づくり事業

総合型地域スポーツクラブ事業

II 競技スポーツの振興

スポーツ活動への関心を高め、競技力の維持・向上及び健康増進を図り、しかも地域住民の交流促進を図るため、市民の誰もが気軽に参加できる各種スポーツ大会を積極的に開催します。また、競技水準の向上のため、ジュニア選手の育成強化を努めるとともに、全国及びブロック大会等の出場のための奨励費を支給するなどの支援を行います。

具体的な取り組み：スポーツ・レクリエーション大会

陸上競技選手権大会

各種大会への派遣奨励事業

ジュニア選手育成支援事業

III スポーツ指導者及び団体等の育成支援の推進

スポーツ推進委員などの指導者への研修会を実施し、スポーツ指導者の資質向上を図ります。体育協会等の団体及びスポーツクラブ（サークル）活動団体などとの連携を強化し、市民自らが主体的にスポーツを楽しむことができる環境を整備し、スポーツ人口の拡大を図ります。

具体的な取り組み：スポーツ推進委員育成事業

体育団体育成支援事業

Ⅳ スポーツ大会の招致と開催

既存の施設の点検・管理等を徹底し、各種の大会運営がスムーズに行えるようにします。また、さまざまな競技に対応できる用具の充実及び整備、点検を行い、スポーツ団体等と連携し、よりハイレベルなスポーツ大会を招致・開催します。

具体的な取り組み：新潟県スポーツフェスティバル大会招致事業

Ⅴ スポーツ等施設整備の推進

既存のスポーツ施設を最大限に有効活用するため、さまざまなニーズに対応できるよう計画的な施設の改修や付属設備等の整備・充実に努めます。また、スポーツ活動の拠点となっている総合会館大ホールの天井崩落防止対策のための改修整備に努めます。このほか、粟島公園テニスコートのコート数を増やした改修工事を進めます。

具体的な取り組み：総合会館大ホール改修事業

粟島公園テニスコート改修事業

芸術文化の推進

■基本方針

市民が自主的かつ創造的な芸術文化活動を行う過程において、心の豊かさと潤いが実感できるまちをめざします。

市民自らが主体的に芸術文化活動を行えるよう、活動する場所の充実に努めるとともに各種芸術文化団体や指導者の育成を図ります。

芸術文化活動への多様なニーズに応えることのできる施設等の整備を進めるとともに、芸術文化に対する関心を高めるため、優れた芸術文化にふれる機会の充実に努めます。

●現状と課題

- 1) 少子高齢化や高度情報化など複雑な社会状況により、趣味・娯楽が多様化してきました。そのため「生きがい」や「心の豊かさ」の尺度に個人差が生じ、生涯学習に対する市民のニーズは多様化してきました。
- 2) 今回の市民意識調査では「生涯学習の目的」として、「知識教養を高めるため」や「体力づくりのため」という項目に多数の回答がありました。また、「生きがいや楽しみのため」という項目の回答は、15年と比較すると半分に減少しました。
- 3) この約10年の間に市民の生涯学習に対する目的が大きく変化してきました。しかし、心の豊かさと潤いのある生活を求め、芸術文化に対する学習意欲や学習成果発表の場に参加することで、最終的には「生きがいや楽しみのため」に到達するような企画を立案し、推進しなければなりません。
- 4) 芸術や芸能及び音楽を鑑賞する機会を、今後も定期的に提供し、市民に少しでも心の豊かさと潤いを与えることが必要です。
- 5) 市民が自らサークル活動などで芸術文化活動を行えるよう、活動の場を提供する支援が必要です。また、あらたに芸術文化活動を始めようという市民については、市からサークル団体の情報や生涯学習指導者派遣の相談等、活動を始める支援を行う体制づくりが必要です。
- 6) 芸術文化の振興を図るため、芸術文化団体やサークル活動団体等の核となる民間指導者の発掘・育成や、多様化する市民の芸術文化活動に対するニーズに対応するため、常に新しい情報に興味を持ち、現時点での講座のあり方や、これからの講座の方向性を検討していくことが必要です。
- 7) 市民が自ら行っている芸術や芸能活動に発表する機会を提供し、市民に鑑賞してもらうことにより、さらに「よここび」や「生きがい」を感じられるよう、今後さらに発表する場所や機会の提供に努めます。そのためには、芸術文化施設の整備なども考えていかなければなりません。

市民意識調査の内容分析

- ◆問 19『この1年間に、芸術や文化的な催しに出かけたり、鑑賞したことはありますか?』という設問では

「美術鑑賞」と回答したのは19.8%と最も多く、次に「映画」18.2%、「文化財」18.0%の順番となりました。年代別で比較すると、「文化財」「美術」と回答したのは60歳代と70歳以上が多く、「映画」「音楽」と回答したのは20歳代が多くなりました。「一度も行かなかった」という回答は10%程度となり、年代別では20歳代の回答が全体の3割と高くなっています。年代が高くなるほど「一度も行かなかった」という回答が低くなっていく傾向がみられました。

- ◆問 20『芸術や文化的な催しに出かけたり、鑑賞することについて「行かない」「行きづらい」理由は何ですか?』という設問では

「遠くて会場に行くことができない」「近くに催しが開催されない」という回答が4割近くを占めています。年代別で比較すると「遠くて会場に行くことができない」との回答が多かった年代は70歳以上の年代でした。「忙しくて時間がとれない」との回答が多かった年代は20歳代から50歳代でした。また、「どのような催しがあるかわからない」との回答が多かったのは30歳代が一番多く、今回のアンケート全体での特徴となっています。「興味がない」との回答が多かったのは、20歳代でした。

- ◆問 25『芸術や文化について五泉市が取り組む場合、重要と思われることは何ですか?』という設問では

芸術・文化の分野で一番多かった回答は「芸術や文化の鑑賞機会の提供」でした。また、「芸術や文化活動を担う人材や指導者の育成」も多くの回答がありました。この項目で特徴的なことは、「芸術や文化活動を担う人材や指導者の育成」と答えた年代が20歳代と70歳代に多かったことです。このことは、芸術や文化を「継承したい」という側と「継承されたい」側がうまくマッチングした場合、芸術や文化活動が安定して継続できる可能性があると考えます。「外国など異なる地域との文化交流の推進」との答えが多かったのは、30歳代でした。

- ◆問 26『五泉市で開催されている芸術や文化の催しに、どの程度参加していますか?』という設問では

【市展・文化展】

「ほとんど毎年行く」「行ったことがある」との回答は全体の6割程度となりました。年代別で比較すると若年層になるほど回答が低くなっています。「知っているが行ったことがない」との回答が多かったのは20歳代と30歳代でした。20歳代では「催しがあるのを知らなかった」という項目に3割の回答がありました。

【市民音楽祭】

「ほとんど毎年行く」「行ったことがある」との回答は全体の2割程度となりました。「知っているが行ったことがない」「催しがあるのを知らなかった」との回答は全体の6割程度となりました。「知っているが行ったことがない」と回答したのは50.0%であり、認知度は高いと考えられます。「ほとんど毎年行く」との項目に回答

したのは50歳代から70歳以上の年代でした。これは、生涯学習活動を積極的に
行っている年代と一致しています。心配されるのは音楽祭に参加する団体に若年層
の加入がない場合、団体の高齢化が進み活動が低迷することです。

【市民芸能祭】

アンケートの結果は、市民音楽祭と同程度の回答内容でした。「ほとんど毎年行く」
「行ったことがある」との回答は全体の2割程度となりました。ただし「ほとんど
毎年行く」と回答した年代で20歳代と30歳代からの回答はありませんでした。
「知っているが行ったことがない」と回答したのは48.7%であり、認知度は高いと
考えられます。やはり、心配されるのは市民音楽祭と同じく、参加する団体に若年
層の加入がない場合、団体の高齢化が進み活動が低迷することです。

【さくらんどう吹奏楽の夕べ】

「ほとんど毎年行く」と回答したのは全体で3.1%でした。年代別では60歳代の
回答が多くありました。「ほとんど毎年行く」「行ったことがある」という項目では
全体の2割程度でしたが、今回のアンケートには20歳代の回答がありませんでし
た。「知っているが行ったことがない」と回答したのは50.5%であり、認知度は高
いと考えられます。

【パーゼンドルフピアノコンサート】

「ほとんど毎年行く」「行った事がある」という項目では全体の3.5%となり、参
加者が低くなっています。「催しがあるのを知らなかった」と回答したのは43.3%
であり、市民への認知度が低くなりました。これは、この事業を開始してから3年
目であるため、市民の認知が低いのではないかと考えられます。今後は、市のホー
ムページや広報紙・ポスターなどを利用し、市民への周知を図っていきます。

【サロンコンサート】

「ほとんど毎年行く」「行ったことがある」という項目では全体の4.8%となり、
参加者が低くなっています。また「行ったことがある」と回答した年代は、50歳
代以上であり、若年層の参加はありませんでした。「催しがあるのを知らなかった」
と回答したのは45.6%であり、市民への周知度が低くなりました。この事業は、そ
の名のとおり、100名以下を対象とした小規模なコンサートであるため認知度が
低いと考えられます。今後は、市のホームページや広報紙・ポスターなどを利用し、
市民への周知を図っていきます。

【さくらんどう落語名人寄席】

「ほとんど毎年行く」「行ったことがある」と回答したのは全体で1割程度となっ
ています。年代別では20歳代を除く全ての年代に回答がありました。「催しがある
のを知らなかった」と回答したのは23.7%と低いため、認知度は高いと考えられま
す。

今後の取り組み

I 芸術文化活動の推進

- 1) 美術教室や書道教室等の各種講座を開催するとともに、市が市民の芸術文化活動の発表の場である市美術展覧会・文化展や芸能祭・音楽祭など、より多くの市民が展示や発表ができる機会を提供していきます。また、市民が主体的・創造的な芸術文化活動ができるよう展示や発表の機会を充実させていきます。
- 2) 芸術文化活動をあらたに始めようという市民や、もっと知識や技術を高めたいという学習意欲の啓発により、芸術文化活動の活性化を推進します。また、芸術文化講座等を、誰にでも分かりやすく気軽に参加できるように、広報活動に工夫をこらし新規受講生の増加を図ります。
- 3) 市民が自主的にのびのびと芸術文化活動ができるよう、芸術文化団体や生涯学習の達人バンク等と連携し、民間指導者の発掘や質の向上を図るための研修会を行います。
- 4) 多様化する市民のニーズに対応するため、広く情報を収集し、新しい講座や文化活動などを市民に提案する等、常に将来を見据えた企画・立案に努めます。
- 5) 多様化する芸術文化活動に関する市民からの要望や質問に対応するため、職員についても各分野の見識を深めるための自己研鑽に努めます。

具体的な取り組み：市展美術展覧会事業

音楽祭・芸能祭開催事業

ごせん生き生き楽習達人バンク※育成事業

きなせや楽習大学事業

II 芸術文化団体の育成支援

- 1) 市民が芸術文化団体を設立し、自ら主体的に芸術文化活動を行うことができるようになることを目的に、これからも生涯学習相談員を配置し、団体の育成支援や見守りを行います。また、指導者からの文化活動運営相談には積極的に対応し、行政として可能な範囲で支援を行い、指導者のレベルの向上と育成を図ります。
- 2) 芸術文化活動の「核」となる文化協会の活動を支援することで、活動基盤の整備を促進します。

具体的な取り組み：芸術文化指導者育成事業

Ⅲ 文化施設の充実

- 1) 利用者が安全にのびのびと利用できる生涯学習施設について、計画的に改修していく必要があります。
- 2) 多様化する市民の学習ニーズに対応するため、生涯学習と芸術文化活動の複合的な拠点施設である（仮称）生涯学習センターの建設に向けて、検討を進めます。計画にあたっては、効率的な運営、利用予測や施設の活用方策などを総合的な視点で検討します。（生涯学習の充実：生涯学習関連施設の計画的な整備の再掲）

具体的な取り組み：（仮称）生涯学習センター建設推進事業
文化施設維持・改修事業

Ⅳ 芸術文化の鑑賞機会の充実

- 1) 市民が芸術文化を気軽に鑑賞することにより、心の豊かさや潤いを得られるよう、展覧会開催事業やコンサート開催事業を今後も積極的に行います。
- 2) コン서트開催事業については、市民が気負わず参加鑑賞できる「サロンコンサート」等を今後も積極的に開催し、芸術文化に対する関心を高めるよう努めます。
- 3) より本格的な音楽、美術、演劇等を市民に鑑賞してもらうため、芸術文化団体と連携の強化を図り、より質の高い芸術文化に対して、市民意識の醸成が図られる企画を立案します。
- 4) コン서트等鑑賞会の実施にあたっては、市のホームページや広報紙などで、デザインを工夫し、魅力あるPR活動に努めます。

具体的な取り組み：展覧会開催事業
コンサート開催事業
舞台芸術鑑賞事業

図書に親しむ環境整備の推進

■基本方針

市内に居住または勤務する全ての人が、誰もが気軽に図書館を利用でき、利用者の要望に応えられる図書館資料の充実と情報提供ができるまちをめざします。

図書や各種資料の充実を図り、調査研究機能の強化をめざすとともに、生涯にわたって本に親しむことができるように、子どもの読書環境の整備と自主的な読書活動を推進します。

●現状と課題

近年電子メディアの浸透により、情報化の進展と収集方法の多様化等が加速し、図書以外の媒体への関心の高まりから、市民1人あたりの図書貸出冊数も伸び悩んでいる状況です。また、子どもの読書離れも進んでいることから、図書館の果たす役割が重要となってきています。

- 1) 市民ニーズに対応した魅力のある蔵書整備や公共図書館のネットワークを活用した資料の提供などの充実を図る必要があります。
- 2) 図書館資料を利用した調査・研究が増えてきていることから、図書館資料を使ったサービスの提供の充実を図る必要があります。
- 3) 子どもたちの読書意欲の向上を進めるため、読み聞かせボランティアの育成・強化が求められています。

今後の取り組み

I 図書館資料の充実

市民意識の多様化に対応した資料の整備が求められていることから、アンケート調査などによる利用者の意向を反映した蔵書の整備を進めます。また、予約・リクエストサービスに迅速に対応するため、全国の公共図書館とのネットワークの利活用をさらに図るとともに、引き続き郷土・行政資料の収集・保存活動の取り組みを強化します。

具体的な取り組み：蔵書整備事業

Ⅱ 調査研究機能の強化

調査・研究などに対して、図書館資料等を活用して援助する機能を強化するため、職員研修を進めながら調査研究機能の向上を図ります。また、サービス提供の利用促進を図るため、市民へのPR活動に努めます。

具体的な取り組み：図書館職員研修事

Ⅲ 子どもの読書活動の推進

未来を生きる子どもたちの、心の糧になるような本の選書に心がけ、成長過程や発達段階に応じた本の橋渡しができるように努めます。また、絵本の読み聞かせやおはなし会などの機会を充実させ、家庭や学校図書館との連携を深め、幼児・児童・生徒がどこにいても「読書」に関心が向くような環境づくりを進めます。

具体的な取り組み：おはなし会事業

出前おはなし会事業

絵本の読み聞かせ講座開催事業

Ⅳ 施設整備の充実

分館機能の向上を図るため本館と分館の役割分担を明確にし、効率的な運営を図ります。本館については、施設や駐車場の整備を進め、利便性の向上に努めます。

具体的な取り組み：書庫整備事業

本館駐車場整備事業

文化財の保護と活用の推進

■基本方針

郷土の自然や歴史、文化財は後世に伝え残さなければならない五泉市の財産です。

これらの財産を大切に保存し、市民がそれらを学習材料として活用し、より深く五泉市に愛着を持てるまちづくりをめざします。

また、地域に古くから残る年中行事や伝統芸能を後世に伝えるため、後継者の育成や団体の支援を行い、文化財に指定するなどの活動を推進します。

市民に文化財の価値を知ってもらったり、身近に感じてもらうため、文化財の公開展示を推進し展示内容の充実とわかりやすい情報提供に努力します。

●現状と課題

- 1) 他の生涯学習の分野と比較し、市民は文化財の分野について関心はあるものの、「馴染みの薄いもの」「難しいもの」との認識が先立ち、多少距離を置いている傾向が見られます。
- 2) 近年では文化財を「活用」することが求められているため、文化財パンフレットを利用して、「文化財説明会」などを企画し、文化財を身近なもの、大切なものという意識の啓発に努めなければなりません。
- 3) 地域で伝承されている年中行事や伝統芸能は、生活習慣の都会化や少子化などで世代間交流が希薄になり、次世代に継承することが難しくなっています。また、保存団体の高齢化により団体活動の継続ができなくなる心配があります。地域で伝承されている伝統芸能など、今後とも絶やさないように保存団体等を支援する必要があります。
- 4) 市内の文化財を適正に把握し、市や県国などの文化財に指定申請するなど、保護や保存に努める必要があります。また、文化財の掘り起しも推進する必要があります。
- 5) 過去の調査で発掘した出土遺物なども多く保管していますが、積極的に展示説明会を開催し、市民に開示することも検討していかなければなりません。
- 6) 文化財について、市民にわかりやすく情報を発信する施設（郷土資料館等）の整備活用を行う必要があります。

市民意識調査の内容分析

◆問 25『芸術や文化について五泉市が取り組む場合、重要と思われることは何ですか?』という設問では

「文化財や伝統芸能などの維持・保存・伝承活動への支援」との項目に 15.4%回答がありました。これにともない「芸術や文化活動を担う人材や指導者の育成」との項目についても 12.1%の回答があり、市民の多くは「保存・伝承」と「人材育成」を望んでいます。年代別で比較すると「文化財や伝統芸能などの維持・保存・伝承活動への支援」は、全ての年代でほぼ同程度の回答がありました。また、「芸術や文化活動を担う人材や指導者の育成」と答えた年代が20歳代と70歳代に多かったことです。このことは、芸術や文化を「継承したい」という側と「継承されたい」側がうまくマッチングした場合、芸術や文化活動が安定して継続できる可能性がありますと考えます。(芸術文化の推進と重複)「芸術や文化の鑑賞機会の提供」との項目では、30歳代40歳代からの回答が多くなりました。「美術館・博物館・文化ホールなど芸術や文化施設の整備充実」との項目では、60歳代70歳以上の回答が多く、20歳代からの回答は少なくなりました。

◆問 26『五泉市で開催されている芸術や文化の催しに、どの程度参加していますか?』という設問では

【郷土資料館】

「ほとんど毎年行く」と回答したのは60歳代だけでした。「行ったことがある」との項目では 25.9%であり、「市展・文化展」に次ぐ高い回答率でした。郷土資料館では通常展示している「通常展」のほかに、毎年テーマを変えて五泉市の文化を紹介する「特別展」を開催しています。この「特別展」を魅力あるテーマで開催することで、「ほとんど毎年行く」の回答率を上げることができます。

今後の取り組み

I 指定文化財等の保存と活用

- 1) 市内に残る文化財をより良い状態で保存するため、各関係者と連携協力を行い、保存整備に努力します。
- 2) 保存整備された文化財を講座や教室を開催し、文化財への興味や理解を促し市民の郷土愛の高揚に努めます。また、文化財の掘り起こしを推進し、指定文化財への検討を積極的に行います。
- 3) 世代を超えて継承されてきた地域の文化や芸能を後世に伝えるため、それらを詳細に記録するとともに発表する機会を作ります。また、保存団体や後継者の育成と支援に努めます。

具体的な取り組み：歴史資料所在確認調査事業
歴史文化財講座事業
文化財維持管理等支援事業
文化財等の公開・活用事業

Ⅱ 埋蔵文化財の保存と活用

- 1) 常に土地開発の情報などを収集し、機会を逃すことなく発掘調査を実施し、確実な記録保存に努めます。
- 2) 発掘調査により出土した遺物や記録資料を開示し、小中学校の総合学習で使用したり、市民にわかりやすく説明をする展示会を開催したりすることで、市民に埋蔵文化財に対する親近感や興味を与え、郷土の歴史を知る機会を提供します。

具体的な取り組み：事前発掘調査事業

出土遺物展示公開事業

Ⅲ 文化財展示施設の充実

- 1) 指定文化財や埋蔵文化財など展示が可能なものについては、展示を行い市民に文化財の周知を図ります。
- 2) 展示施設については郷土資料館を活用し、展示物の入れ替えを行いながら公開します。また、郷土史研究者や文化財の所有者の協力を得ながら、魅力のある「特別展」なども開催し、展示施設の充実を図ります。
- 3) 郷土資料館は、入館者の満足度を高めことはもとより、市内の小中学校の総合学習での活用に努力し、子どもたちから郷土の歴史を学習する機会の提供に努めます。

具体的な取り組み：特別展・企画展開催事業

Ⅳ 情報発信の充実

- 1) 市の広報紙やホームページなどに記事を掲載し、文化財についての情報を発信します。
- 2) 文化財パンフレットを活用した文化財巡りなど、市民が気軽に参加できる企画を立案し、文化財の情報発信と学習意欲の高揚を図ります。

具体的な取り組み：文化財等説明看板整備事業

文化財パンフレット活用事業

基本施策

ふれあい いずみ の泉水

～ 交流あふれ、ふれあい豊かに暮らしているまち ～

誰もがともに支えあい、ふれあい豊かに暮らすことができるよう、地域ぐるみで青少年を育み、障がい者などが地域の中で自立した生活を送ることのできる環境づくりを進めるとともに、多様な文化ともふれあえる、交流のあふれたまちづくりを進めます。

市民意識調査の内容分析

◆問 28『家庭で子どもたちに特に重要と思う教育内容は何ですか?』との設問では(この設問は一般的な「成人」の視点から特に重要と思う教育内容について調査しました。また、24年のアンケートでは、20年の設問項目を見直し「差別・いじめの防止」「学習習慣」を追加し、「道徳感」を「社会的マナー」に、「自立心」を「自主性」に、それぞれひとつにまとめました。)

【乳幼児期】

20年と比較し24年のアンケート調査で特徴的なのは、「基本的な生活習慣」「他人への思いやり」の回答が減少したことです。また、「自制心」という項目の回答は20年と比較し3倍程度増加しました。他の項目では大きな数値の変動はありませんが、この5年間で「子」に対する社会一般的な家庭教育の考え方が少し変わってきたと考えます。全体的には、20年と同じく「基本的な生活習慣」「豊かな情操」が高い回答を得ています。男女別に比較すると「基本的な生活習慣」は男性が多く回答しており、「豊かな情操」は女性が多く回答しています。

【小学生期】

小学生期の回答内容は、20年と比較し大きな変化はありませんでした。新しく追加した「学習習慣」は12.3%と高い回答でした。男女別に比較すると「他人への思いやり」「正義感」「差別・いじめの防止」は男性の回答が多く、「基本的な生活習慣」「自然体験」「豊かな情操」「性教育」は女性の回答が多くなりました。

【中学生期】

「基本的な生活習慣」の項目では24年が20年の2倍に増加しました。また、「自制心」については24年が20年の半分の回答となりました。新しく追加した設問項目である「学習習慣」については9.4%、「差別・いじめの防止」については7.7%と比較的高い回答になりました。男女別比較については「他人への思いやり」「自制心」「豊かな情操」は男性の回答が多く、「自主性・自立心」「人間関係の構築」「学習習慣」は女性の回答が多くなりました。「性教育」の項目では20年と比較し1.9ポイント減少し5.3%の回答となりました。

【高校生期】

「基本的な生活習慣」の項目では20年と比較し、約2倍増加し10.9%となりました。小学生期から中学生期に本来であれば確立されるべきものとされますが、24年では増加しています。「自制心」については20年と比較し4.7ポイント減少し2.5%の回答となっています。「自主性」については20年と比較し約2倍増加し13.4%の回答となりました。男女別比較については「他人への思いやり」「基本的な生活習慣」「職業観」は男性の回答が多く、「人間関係の構築」「差別・いじめの防止」は女性の回答が多くなりました。

【各年代期別比較】

24年度アンケート結果を各年代期別に比較してみました。乳幼児期・小学生期で回答が多かった項目は「基本的な生活習慣」でした。中学生期・高校生期で回答が多かった項目は「自主性」でした。「人間関係の構築」は中学生期から高校生期にかけて急激に増加しました。また、「社会的マナー」については小学生期から高校生期にかけて急激に増加しました。「他人への思いやり」「豊かな情操」「差別・いじめの防止」は小学生期から高校生期にかけて減少しています。「自制心」について、どの年代も低い回答だったのが特徴的でした。

◆問29『子どもを育てるにあたって親として特に大切な内容は何ですか？』

この設問では

(この設問は、「子」を持つ「親」としての視点から特に重要と思う教育内容について調査しました。また、24年のアンケートでは、20年の設問項目を見直し「適応力」「性教育」「差別・いじめの防止」を追加し、「学習の必要はない」を削除しました。)

【乳幼児期】

「子とのコミュニケーション」は20年の調査と比較してやや増加しています。また、「夫婦に関する事について」「親としての生き方」についても回答が増加しました。「子の自立心の育て方」については減少しました。これは、少子化により子どもを大切に育てたいという考えが、前にも増して強くなったことが推測されます。男女別に比較すると、「夫婦に関する事について」「家族に関する事について」「社会的モラルの育成」と回答したのは男性が多く、「子の自立心の育て方」「子とのコミュニケーション」「子どもの発達段階について」は女性の回答が多くなりました。

【小学生期】

乳幼児期に多くの回答があった「子とのコミュニケーション」が小学生期に減少しました。「子の自立心の育て方」は20年と比較して5.1ポイント減少し、9.2%となったことも心配されます。新に項目を追加した「差別・いじめの防止」については、ある程度の回答があり親の関心度が初めて判明しました。男女別回答で大きく差があったのは、「社会的モラル」「子の発達段階について」「適応力」「虐待について」は男性が多く回答し、「基本的な生活習慣の定着」「子の自立心の育て方」は女性が多く回答しました。

【中学生期】

中学生期でも「子とのコミュニケーション」が小学生期と比較しても半分に減少しています。子どもの多感な時期にもかかわらず、特に重要と考えない「親」が多いのが心配されます。「差別・いじめの防止」についての認識度は7.4%でした。男女別回答で大きく差があったのは「家族に関する事について」「夫婦に関する事について」は男性が多く回答し、「基本的な生活習慣の定着」「社会的モラル」「忍耐力」「適応力」は女性が多く回答しました。

【高校生期】

20年と比較し「子とのコミュニケーション」が7.9ポイント減少し4.5%のまで落ち込んでいます。「基本的な生活習慣の定着」は20年と比較し3.5ポイント増え12.0%となりました。また、「性教育」が各年代期のなかでもっとも多い回答となりました。男女別回答で大きく差があったのは、「虐待について」「発達障害について」は男性が多く回答し、「夫婦に関する事について」は女性が多く回答しました。

【各年代期別比較】

この設問は、「子」を持つ「親」としての視点から特に重要と思う教育内容を各年代期別にまとめてみました。「子とのコミュニケーション」は年代期が高くなるほど、急激に減少しています。高校生期になると4.5%まで減少し、家庭で話し合いの場がなくなっている事が予想されます。「基本的な生活習慣の定着」については高校生期でも12.0%程度となり、家庭教育能力が低下してきていることが、わかります。「社会的モラル」については年代期が高くなるにつれ、緩やかに上昇しています。「親としての生き方について」「虐待について」「夫婦に関する事について」「発達障害について」は回答率が低いながら各年代期で平均しています。「子の自立心の育て方」「忍耐力」「差別・いじめの防止」については中学生期で多く回答がありました。また全年代期で、「忍耐力」の回答が低くなったのが心配されます。

青少年を地域ぐるみで育む環境整備の推進

■基本方針

家庭や学校、関係団体などが地域ぐるみで青少年の健全育成に取り組み、青少年の問題行動の防止に努め、それにより次世代の担い手である青少年たちが、心身ともにたくましく成長できるまちをめざします。

教育の原点である家庭教育力の向上を図るため、基本的な生活習慣の徹底や親子のふれあいの増進などの家庭教育に関する企画を推進します。

保護者や各関係団体と連携し相談体制の充実を図ります。

また、大人と子どもがともに学ぶ体制と環境を整備し、「子どもを地域ぐるみで育む」取り組みを推進します。

●現状と課題

- 1) 少子化や核家族化、ことなかれ主義などにより地域社会や家庭での人間関係の希薄化や親子関係の変化を背景に、現在の子どもたちが成長するにあたり、大人になるためのあらゆる経験が不足になっていることが問題となっています。
- 2) 今の子どもたちの周囲は治安や社会環境の悪化により、家庭だけでは対処できない問題が増えています。
- 3) 親については家庭教育力が低下し、基本的な生活習慣の確立や、社会的なマナーを子に教えることを、学校や地域に頼るような風潮になってきました。
- 4) ニートやひきこもり、不登校などあたりまえの学校生活や社会生活を営むことが困難な青少年を支援するため、学校や家庭、地域、各関係団体が一体となり連携して青少年の健全育成に取り組むことが重要となってきました。
- 5) 青少年同士の人間関係は、以前より複雑化しており大人からは分かり難くなってきています。
- 6) 子ども達を取り囲む環境が大きく変化しており、少子化や地域社会での人間関係の希薄化などで経験値が不足した子どもたちは、引きこもりや不登校などの問題行動を起こしてしまいがちです。
- 7) 悩みを持つ青少年や親たちに対する相談体制の充実や、あたりまえの学校生活や社会生活を営むことが困難な青少年に対して、各関係機関が連携してサポートする体制の確立が必要です。
- 8) 健全育成の根底である家庭における生活習慣・リズムの乱れが問題となっており、家庭教育について保護者への意識啓発や支援が必要です。
- 9) 子どもたちは自然体験や各種社会体験、異世代交流などの経験が不足しており、子どもたちにあらゆる体験を経験させる企画を推進することが必要です。